



まだ誰も知らない安心を、ともに。

## テレマティクス自動車保険のご契約台数が 100 万台突破！ ～「安全・安心なモビリティ社会の実現」に向けた各種取り組みがお客さまからも高評価～

2021年9月15日

MS & ADインシュアランス グループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（代表取締役社長：金杉 恭三）は、個人・法人のお客さまへ販売している最新の技術を活用したテレマティクス<sup>※1</sup>自動車保険のご契約台数がおかげさまで 100 万台を突破し、自動車保険全体のご契約台数も 1000 万台を突破したことをお知らせします。

※1 「テレコミュニケーション」と「インフォマティクス」を組み合わせた造語で、カーナビや GPS 等の車載器と移動体通信システムを利用して、様々な情報やサービスを提供する仕組み

### 1. これまでの取組

当社はテレマティクス自動車保険のパイオニアとして、「事故のあとの保険から事故を起こさない保険へ」をコンセプトに、2018年4月にコネクティッドカーを対象に国内初の運転挙動保険料反映型の「タフ・つながるクルマの保険」を発売しました。また、2020年1月にはコネクティッドカー以外で初めて、通信機能付きドライブレコーダー端末による運転挙動保険料反映型「タフ・見守るクルマの保険プラス（ドラレコ型）」を発売し、2021年1月にはドライブレコーダーの設置有無にかかわらず、月々100円でご加入いただける当社オリジナルの通信車載器とスマートフォンアプリを活用した運転挙動保険料反映型「タフ・見守るクルマの保険プラス S」を発売しました。

このテレマティクス自動車保険は、運転診断レポートなど安全運転につながる各種サービスの提供に加えて、安全運転の取組を評価し保険料の割引に反映する仕組みを評価いただき、高い満足度を実現しています。こうした仕組みにより、安全運転をさらに意識いただけるため、当社のほかの自動車保険に比べて、事故発生頻度が低減しているといった効果も確認されています。

また、2019年4月からは業界初のテレマティクス技術を活用した事故対応システム「テレマティクス損害サービスシステム<sup>※2</sup>」の提供を開始するなど、「損害からの迅速な回復」を支援する新たな機能により、事故の早期解決も実現しています。

<当社のテレマティクス自動車保険とそれ以外の自動車保険の比較>

契約 総合満足度 <sup>※3</sup>	+13.1pt	事故頻度	▲14.0%	短縮日数 <sup>※4</sup>	▲19.6日
---------------------------	---------	------	--------	--------------------	--------

※2 ドラレコ映像・位置情報・加速度等の各種データを活用したAIによる事故検知、事故状況把握、相手車両速度解析、過失判定を行う最先端の事故対応サービス

※3 当社保険のご契約に関するアンケートで「満足」と回答いただいた割合

※4 双方に責任割合が発生する対物賠償保険事故の解決所要日数(2019年1月以降発生事故)

こうした取組に多くのお客さまからご支持いただき、契約台数が順調に拡大してきた結果、2020年度末には自動車保険全体のご契約台数が 1000 万台に到達し、今般、テレマティクス自動車保険のご契約台数も 100 万台を突破することができました。

### 2. テレマティクス自動車保険による社会との共通価値創造（CSV）

テレマティクス自動車保険は、補償という保険の基本機能の提供にとどまらず、事故の抑制といった

未然防止機能や万が一の事故の際にも迅速な回復を支援する機能を提供し、お客さまとともに事故削減に取り組むことで、安全・安心なモビリティ社会の実現、SDGsの目標達成にも貢献しています。

#### ＜主な社会・地域課題解決への貢献事例＞

##### (1) 地域の交通事故削減

テレマティクス技術により取得したデータを活用し、急ブレーキ等の危険挙動が多数発生している地点を反映した交通安全MAPを地方公共団体等へ提供することで、地域の交通安全対策に役立てています。

##### (2) CO2 排出量の削減

本商品の最大の魅力でもある安全運転による保険料割引は、事故の削減に貢献することに加え、急ブレーキ・急発進の発生回数の抑制を促す仕組みになっていることから、エコドライブの推進にもつながり、CO2 排出量の削減が期待されます。

##### (3) 産業廃棄物の削減

事故低減は廃車に伴う産業廃棄物の削減にも直結することから、地球環境の保全に寄与します。

##### (4) 地域公共交通の課題解決

本商品で提供している運転技能向上トレーニング・アプリを利用することで、特に高齢者層の方の安全運転向上効果が見込まれ、地方における公共交通サービスが縮小傾向にある中、クルマに長く乗り続けていただくことを支援できるため、地域の活性化に貢献しているといえます。

##### (5) 自然災害からの迅速な回復

テレマティクス技術により取得したデータは、水災が発生した際の車両保険の迅速なお支払いに活用しています。被害が甚大な地域では、専用車載器から自動送信される位置情報によりお客さまの車両が駐車していた位置を把握します。この位置情報と被災地域の映像等の情報を組み合わせ、現車の確認を省略のうえ全損認定を行い、迅速な車両保険金のお支払いを実現しています。

なお、この考え方は「CSV×DX（シーエスブイ バイ ディーエックス）」※5 と呼び、当社の新たな商品戦略として、今後も将来を見据えた社会との共通価値を創造し、社会・地域課題解決に貢献できる新たな商品・サービスの拡充にも取り組んでいます。

※5 CSV・・・Creating Shared Value（社会との共通価値の創造）

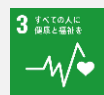
DX・・・Digital Transformation（データやデジタル技術を活用し、価値提供を変革させること）

### 3. 今後の展開

2022年1月には、ノンフリート契約の法人のお客さまにも運転挙動保険料反映型テレマティクス自動車保険を提供できるようラインアップをさらに充実させるとともに、各商品・サービスの更なる魅力増しも提供します。今後は、「まだ誰も知らない安心を、ともに。」を当社の商品戦略のコンセプトに掲げ、お客さま・地域・社会とともに共通価値を創造し、社会・地域課題の解決に貢献すべく、テレマティクス自動車保険の進化にチャレンジし続けます。

以上

当社は、社会との共通価値を創造し、目指す社会像である「レジリエントでサステナブルな社会」を実現するため、SDGs（持続可能な開発目標）を道しるべとし、地域の皆さまに貢献する活動を行ってまいります。



当社は、「特色ある個性豊かな会社の確立」を掲げ、行動指針である「地域密着」を追求するとともに、お客さま・地域・社会とともにリスクを削減し、社会・地域課題の解決に資する商品・サービスをご提供しております。この考え方・コンセプトを「CSV×DX（シーエスブイ バイ ディーエックス）」というキーワードのもと展開し、幅広い商品・サービスで実現していきます。

